

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲全曲演奏会

at 白寿ホール

(連続2夜)

シギスヴァルト・クイケン

(ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ)

J.S. Bach
Cello Suites Complete

Sigiswald
Kuijken

Violoncello Da Spalla

300席の親密な空間で堪能する
巨匠シギスヴァルト・クイケンによるJ.S.バッハの真髄!!



第1夜 2014年7月2日(水)

19時開演(18時30分開場)

Wednesday, 2 July at 19:00

第1番 ト長調 BWV1007

No.1 in G major, BWV1007

第2番 二短調 BWV1008

No.2 in d minor, BWV1008

第5番 ハ短調 BWV1011

No.5 in c minor, BWV1011

第2夜 2014年7月3日(木)

19時開演(18時30分開場)

Thursday, 3 July at 19:00

第3番 ハ長調 BWV1009

No.3 in C major, BWV1009

第4番 変ホ長調 BWV1010

No.4 in E flat major, BWV1010

第6番 二長調 BWV1012

No.6 in D major, BWV1012

◎全指定席 ¥6,000(消費税込)

◎2夜連続券 ¥10,000(消費税込/カメラータ・トウキョウのみ取り扱い)

チケット発売日 2014年1月22日(水)

●お問合せ・電話予約:

カメラータ・トウキョウ 03-5790-5560

<http://www.camerata.co.jp>

●チケットお取扱い:

Hakuju Hall チケットセンター 03-5478-8700 <http://www.hakujuhall.jp>

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp>

イープラス <http://eplus.jp>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

主催:カメラータ・トウキョウ 共催: Hakuju Hall/株式会社白寿生科学研究所

協賛: ㈱キングインターナショナル

HAKUJU HALL (渋谷区富ヶ谷1-37-5 Tel.03-5478-8867)

レオンハルト、ブリュッヘン、アーノンクール、ビルスマ達と 古楽界を常にリードしてきた古楽界の巨匠が、 注目の楽器ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラで贈るJ.S.バッハの世界

シギスヴァルト・クイケン

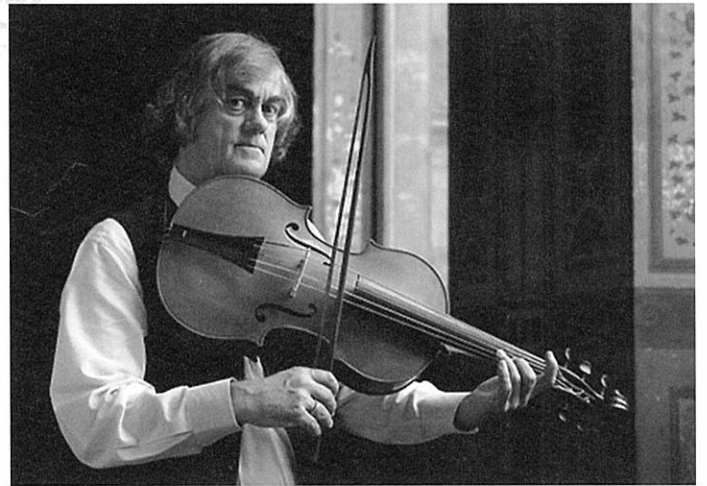
Sigiswald Kuijken

1944年ブリュッセル近郊生まれ。64年にブリュッセルの音楽院を卒業。

若い頃から、兄ヴィーラントとともに古楽に親しみ、独学で17～18世紀の演奏技術と演奏習慣を徹底して身につけた。これを契機に1969年、あごで楽器を支えず自由に肩に持たせかける奏法をはじめ、これはヴァイオリン音楽へのアプローチに決定的な影響を及ぼし、70年代初めから多くの奏者たちによって続々と採用されることになった。64年から72年までの間、アラリウス・アンサンブルの一員として活動し、その後も兄弟であるヴィーラントとバルトルド、グスタフ・レオンハルト、ロベール・コーネン、アンナー・ビルスマ、フランス・ブリュッヘン、ルネ・ヤーコプスと個性的な室内楽プロジェクトを立ち上げている。72年ラ・プティット・バンド結成。シギスヴァルトは恒久的なリーダーとして精力的な活動を続けている。86年クイケン弦楽四重奏団結成。98年以來、しばしば「モダン」の交響楽団を指揮し、シューマン、ブラームス、メンデルスゾーンなどのロマン派のレパートリーにも取り組んでいる。

2004年シギスヴァルトの研究により復元された「ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ」でバッハ時代のチェロ・パートを演奏し注目を集める。71年から96年までハーグ音楽院、同時に93年から2009年はブリュッセルの王立音楽院で教鞭をとっている。その他、ロンドンのロイヤル・カレッジ、シエナのキジアーナ音楽院、ジュネーブ音楽院、ライブツィヒ音楽大学等で客員教授として教えている。

2007年2月にルーヴェン・カトリック大学より名誉博士号を授与、2009年2月にはフランドル政府より「生涯功労賞」が授与された。

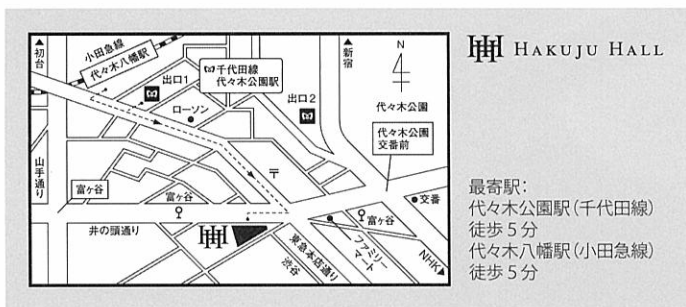


ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラ (Violoncello da Spalla)

スパッラはイタリア語で「肩」を意味します。ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラは肩のチェロ、肩に乗せて演奏されるチェロを意味します。肩に構える奏法のため、バロック時代には、ヴァイオリン奏者やヴィオラ奏者により演奏されました。

J.S.バッハがヴァイマルの宮廷音楽家になった時、ヴァルターは教則本に「チェロはイタリアの低音楽器で・・・ヴァイオリンのように演奏された。つまり部分的に左手で支えられた」と記しました。彼の言葉はチェロがヴァイオリンのように弾かれる、すなわちJ.S.バッハの作品とドイツ作品群のなかでも、ダ・スパッラ式に肩で構える奏法を強く裏付けています。ヴァルターの他、ドイツ、イタリアの原典を元に、研究がなされ、ディミトリー・パディアロフが、現存するヴィオロンチェロ・ダ・スパッラの中でも最も小型のホフマンの楽器を復元、クイケンをはじめ、寺神戸亮等が演奏している。

ヴィオラをひと回り大きくした、肩から吊るして、ギターのように構えて弾くこの楽器。コンパクトなボディから予想以上に豊かに鳴る低音、独特の美しい繊細な音色で、奏者そして聴衆を魅了している。



ラ・プティット・バンド & シギスヴァルト・クイケン

ACCENT

『管組』を再録音!
本当の音を追求するクイケンのこだわりが結実した1枚!



J.S. バッハ：
管弦楽組曲(全曲)
バルトルド・クイケン(トラヴェルソ)
録音：2012年9月29日～10月1日：
ベルギー、シント・トルイデン、
ペギンホフ教会
ACC 24279

★古楽界の巨匠 S. クイケン率いるラ・プティット・バンドによるバッハの管弦楽組曲。彼らは1981年に録音しており、31年ぶりの再録音ということで、その間の絶え間ない研究や技術の向上が結実したものとなっています。そして通常2枚組で販売されることの多い作品ですが、クイケンならではの快速テンポで1枚に収め、爽快地生き生きとした演奏を聴かせてくれます。

S. クイケンの職人技が魅せる、
ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラによる無伴奏チェロ組曲!



J.S. バッハ：
無伴奏チェロ組曲(全曲)
録音：2007年(デジタル)
ACC 24196

★ヴィオロンチェロ・ダ・スパッラによる無伴奏チェロ組曲を S. クイケンが録音。「肩のチェロ」と呼ばれるこの楽器は、ヴァイオリンやヴィオラと同じ構えで演奏する小型チェロ。この楽器はディミトリー・パディアロフによって2004年製作完成、その直後からクイケンはステージで演奏していました。様々な記録を元に復元されたスパッラの、新鮮な音の響き、新しい効果、滋味深い、味わいのあるクイケンの演奏は必聴です。

純正な響きを追求した新名盤の登場!



J.S. バッハ：
ブランデンブルク協奏曲(全曲)
録音：2009年10月19-23日
ベルギー、ギャラクシー・スタジオ
KKC-5138/9(2SACD Hybrid)
日本語解説付

★バロック音楽界では革命的な影響を及ぼしたヴィオロンチェロ・ダ・スパッラを用いた録音。歴史的研究に基づきバロック時代の管弦楽曲は「パート1人」で演奏されていたと考えられており、この演奏もそのような編成を取っています。古楽の先駆者たちが数々の録音を行っていますが、このアルバムはそれらの演奏を一石を投じるものとなりました。